

みやま市 Press Release

報道機関各位

令和8(2026)年2月18日

問:総合政策課シティプロモーション係

担当:村越、池末

TEL:0944-64-1550

映画『笑いのソネット』2月28日クラunkイン

～映画を通じてみやまの魅力を全国へ PR～

本市出身の小田憲和さんが監督を務める、本市を舞台とした新作映画『笑いのソネット』の制作が現在進められており、今月28日にいよいよクラunkインします。

この映画は、「笑いは詩になる」というテーマのもと、家族・地域・命をめぐる「生きること」の意味を描いたヒューマンドラマです。みやまの風景や人々の記憶が丁寧に描き出され、本市の魅力がスクリーンを通じて全国へ発信される予定です。

■映画の概要

作品名:「笑いのソネット」

制作主体:株式会社 SunLight、株式会社 TOY FILM



株式会社 SunLight



株式会社 TOY FILM

■撮影期間(予定) 2月28日(土)～3月15日(日)

3月15日(日)は、エキストラも含めての撮影を予定

■撮影場所(予定)

みやま市総合市民センター、みやま市立図書館、
みやまカフェ SPON、道の駅みやま、清水寺本坊庭園、
中ノ島公園、山川市民センター、山門高校、ヨコクラ病院他

■その他

3月15日撮影時のボランティアエキストラを募集中



○小田憲和(おだ のりかず)監督略歴

山川中学校、伝習館高校を卒業し、九州大学大学院修了。

大学在学中から映画制作を開始し、短編を中心に数多くの映画祭で入選。

昨年、女子高校生のダンス同好会活動を舞台に著作権問題を取り上げた
「LIBERTY DANCE」(リバティーダンス)が全国公開される。



くらし調う、みやま有明。
KURASHI TONOU

Sonnet of Laughter
失踪した兄が残したもの
未完成のネタ帳と傘。

SunLight Film 第二弾

笑いのソネット

Sonnet of Laughter

監督・脚本：小田 憲和 主演：岡 ひなた

SunLight Film 第二弾、始動。

第一弾「誰が為にフィルムはまわる」(監督:小田憲和)は、福岡国際会議場での上映にて1100人を動員。若者が中心となって作り上げた作品は、地域発の映画として異例の盛況を博し「地方からでも文化を発信できる」という確かな実績を示しました。

新作「笑いのソネット」は、「笑いは詩になる」と信じて芸人を志した兄の消息を追う妹が、町の人々の証言を辿りながら兄の未完成のネタを完成させようとする物語です。福岡市とみやま市の風景や人々の記憶を丁寧に描き出し、町そのものが“舞台”となります。

本プロジェクトの根底にあるのは、「何者からでも、夢をつかめる場所を。」という理念。1100人を動員した第一弾を超えて、今作は「地域と夢の融合」をテーマに挑みます。

“まだ何者でもない”若者が、町と共に歩み出す希望の物語。

「何も知らんのが、悔しかった。」

福岡県みやま市で無氣力に日々を過ごす高校生・松尾陽詩。ある夕暮れ、兄・翔太の“彼女”を名乗る女性・白河七海が自宅を訪ねてきた。

【翔太さんと、連絡が取れないんです】

眞面目に働いているはずの兄はすでに仕事を辞め、消息を絶っていた。

部屋に残されていたのは、穴だらけの黒い傘と、一冊の“ネタ帳”。そこにはくだらないようで不可解なフレーズが並ぶ――

【田舎の信号が壊れてても、誰も気にせん】

【カレー食べすぎて…加齢臭!】

しかし、その横には見知らぬ名——「三谷翔」の文字。

福岡市の小劇場。舞台裏で彼女たちの前に現れたのは、坊主の芸人。

【…昔、コンビやった。俺と翔太で。やけどアイツ、舞台に立てんかった】

兄の知られざる素顔、町に散りばめられた“笑い”的断片。

失踪した翔太の真実を追い求める旅が、今はじまる――



松尾 陽詩(17) 主人公/翔太の妹
みやま市在住の高校生。手帳を手がかりに兄を追う。



白河 七海(23) 翔太の大学時代の恋人
福岡市在住。翔太の消息を追うため陽詩とタッグを組む。



三谷 翔(25) 芸人/翔太の元相方
翔太の秘密を抱えつつ、二人を“舞台”へ導くキーマン。

あなたの名前を
エンドロールに刻みませんか?

2026.01.30まで

クラウドファンディング中



映画作りの
仲間になりませんか?
エキストラ募集中♪



笑いのソネット 2026年
公開予定
Sonnet of Laughter

SunLight Film
公式Instagramはコチラ▶

